

# 「湯のまち」を「結のまち」へ

はじめに

登別市と聞いて、皆さんがまず第一に思い浮かべるのは、やはり「登別温泉」ではないでしょうか。

「登別温泉」は開湯150年以上の歴史を誇り、年間300万人以上の観光客が、国内はもとよりアジア地域を中心に世界からも訪れる日本有数の温泉観光地です。

「登別」の語源は、アイヌ語に由来し、「ヌプルベツ」白く濁った川・色の濃い川を意味します。このことから、登別は古くから川の色が変わるほど豊富に温泉が湧き出していた様子がうかがえます。

「硫黄泉」「食塩泉」「明ばん泉」「芒硝泉」「石膏泉」「緑ばん泉」「鉄泉」「酸性泉」「重曹泉」。これらはすべて温泉の泉質を表すものです。「登別温泉」の最大の特徴は、これら泉

質と効能の異なる9種類の源泉が湧き出していることです。これは世界的にも珍しく、「登別温泉」は「温泉のデパート」とも言われています。

### 東日本大震災の影響

去る3月11日の東日本大震災により被害を受けた方々には心からお見舞いを申し上げますとともに、亡くなられた方々には謹んで哀悼の意を表します。また、被災地の一日も早い復旧・復興を願いますとともに、本市としてもできる限りの支援をしまいたいと思っています。

本市の震災による直接的被害は、津波による漁船の転覆・浸水や漁港施設の破損などがありました。幸いにも人的被害はありませんでした。

しかしながら、震災に伴う経済活動の自粛や福島第一原子力発電所事故による風評被害は、本市の基幹産業である観光に深刻な影響を与えています。

登別温泉の宿泊キャンセルは、地震発生後10日間で2万人を超えました。その後は国内観光客を中心にやや回復の兆しが見えていますが、外国人観光客は依然として激減しており、宿泊施設、土産物店、テーマパークなどの観光関連企業は大きな打撃を受けています。

本市としては、本年4月1日に観光庁から認定された北海道登別洞爺広域観光圏(本市および洞爺湖サミット開催地である洞爺湖町を含む近隣7市町で構成)と連携を取りながら、観光関連企業の経営維持と従業員の雇用確保のため、国内容を中心とした誘客キャンペーン

ンを行っています。

また、震災後激減した外国人観光客を再誘致するため、アジア地域を中心とした諸外国の政府関係者や旅行関係者を広域観光圏に招待し、北海道が安全で素晴らしいところであることをPRしています。今後は、私自身がアジア地域を訪れ、北海道観光の安全性と素晴らしさをトップセールスしようと考えています。

被災地を支援し、元気を取り戻すには、まず自分たちのまちが元気にならなければならないと私は考えます。そのためにも、一日でも早く「登別温泉」に以前のにぎわいを復活させ、登別発の元気で被災地を支援したいと思っています。

### 安心を感じるまちづくり

震災後の4月初旬に、私は、本市の姉妹都市である宮城県白石市への災害見舞いやほかの被災地の現状を把握するため、宮城県に入りました。

そこで目の当たりにしたのは、テレビで見えていた以上の津波被害の惨状、このように海から離れた地域まで津波に襲われたのかという驚嘆、心が癒えないままに集団生活を余儀なくされている被災者の方々の現実でした。

帰る前夜には、M7.4という最大クラスの余震に遭遇しました。今まで経験したことのない激しい揺れ、ホテルの壁に掛けられている絵が振り子のように左右に大きく揺れ、ホテルが停電して真っ暗闇となり、頭の中に一瞬「死への恐怖」がよぎる中を必死で屋外に避難しました。震災を体験した方々とは比べものにならないとは思いますが、私には怖い体験でした。

私は、本年度の市政執行方針において、「安心を感じるまちづくり」「活気が溢れるまちづくり」「担い合



湯鬼神(ゆきじん)たちが噴火のごとく打ち上げる鬼火花

町内会や小・中学校に  
対し、独自に1次避難  
場所を調査、選定する  
よう依頼しています。  
また、災害の際に大  
きな役割を果たす学校  
施設については、早急  
な耐震化の実施や食  
糧・毛布等の備蓄など、

うまちづくり」の3点を重点施策としていましたが、震災を契機に、「安心を感じるまちづくり」を最重要施策として取り組まなければならないと考えています。

本市は太平洋に面し、市街地は一部を除き、海岸線に細長く集積しています。このような地理的事

情もあり、津波警報が発令された際の避難場所に海岸線近くの公共施設を指定している場合もあることから、早急な見直しが必要と考えています。  
大震災は、自分の身は自分で守ること、少しでも早く高台や高い建物に避難することを教訓として残しました。避難場所として指定された公共施設は、あくまでも2次避難場所とし、災害発生直後の1次避難場所は、高台や高い建物としなければなりません。現在、

万が一の際に備えることができるような対策を行います。

### むすびに

震災に関する内容が多くなってしまいましたが、これからのまちづくりにおいて私は、「結」という言葉がキーワードになると考えています。  
広域連携、姉妹都市、友好都市など自治体同士の結びつき。私た

ち市役所と市民の皆さん、市内で活動されている団体の皆さんとの結びつき。市民の皆さん同士、市民団体同士の結びつき。  
これらの「結」を大切にし、市民の皆さんと行政がこれまで培った知識や経験、人脈やネットワークをさらに強固に結びつけることで、人材をはぐくみ、生かし、地域力を高め、「湯のまち」登別を「結のまち」登別へと発展させてまいります。

### プロフィール

- ◆ 面積 212.11km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 5万2037人
- ◆ 世帯数 2万5096世帯

〔将来都市像〕人が輝き まちがときめく ふれあい交流都市 のほりべつ  
〔まちの特徴〕太平洋に面し、支笏洞爺国立公園をはじめとする豊かな自然環境と多種多量の温泉に恵まれた北海道有数の観光都市

〔特産品〕スケトウダラ(たらこ)、秋サケ、毛ガニ、登別牛乳、プリン、ア



登別市長 小笠原春一



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

# 豊かな自然と文化遺産が誇り 震災を機に安全・安心のまちづくり

### はじめに

平成17年10月に、旧南那須町と旧烏山町が合併して誕生した那須烏山市は、栃木県内で最も規模の小さな市ですが、先祖から延々と伝えられてきた豊かな自然や数多くの文化遺産を基に、市民との協働によって「小さくてもキラリと光る」魅力的なまちづくりを進めています。

特に自然環境では、鮎釣りのメッカでもある那珂川・荒川という二筋の清流と、自然公園に属する八溝山系の山々、そして里山といったバランスの取れた環境が、農産物や水産物など多くの自然の恵みを与えてくれます。また、文化遺産では、毎年7月第4土曜日を中心に行われる国重要無形民俗文化財の「山あげ祭(烏山山あげ行

事)」が有名です。道路上に長さ100mにわたる「はりか山」前の舞台で繰り広げられる日本一の野外劇は必見です。さらに、地元長者伝説が残る国史跡の「長者ヶ平官衙遺跡附東山道跡」、無形文化財の烏山和紙「程村紙」、「塙の天祭」など貴重な文化財が多く残されているほか、明治以降の近代化遺産、今年で開業88周年を迎える地域色豊かなローカル線「烏山線」、市民主役のイベント「いかんべ祭」「みなすタウンイルミネーション」など新しい文化も次々に発信しています。

### 教育と福祉を充実

さて、全国的に深刻化する少子高齢化は、典型的な地方都市である本市においても非常に大きな問題であり、市の最重要課題として

す。同時に、国の地域再生計画の認定を受け、道路などインフラ整備・充実を図ってきたところです。

### 震災復旧に全力を傾注

一方で、合併特例債を使った公共施設整備の準備も着々と進めてきました。既に、「都市再生ビジョン」や「公共交通再編整備計画」といった都市空間整備の基となる計画がまとまり、いよいよ平成23年度を「実行の年」として位置付けたところですが、そんな矢先に見舞われたのが、国内観測史上最大を記録した東日本大震災です。本市においても、震度6弱を記録し、2名の犠牲者を出したほか、市内



震災で壊滅的被害を受けた公営温泉施設

全域で家屋が損壊し、道路・水道・電気などライフラインにも甚大な被害を及ぼし、公共施設も一部で壊滅的な損害を受けました。また、福島第一原発の事故では、110kmも離れた本市においてさえ、農産物の出荷制限や風評被害、健康不安、放射線量調査など多大な影響を及ぼしています。

このため、市ではハード事業などの各種施策を一時凍結し、災害復旧に全力を傾注するとともに、「地域防災計画」を全面的に見直し、放射線対策を含む「危機管理マニュアル」の策定を優先することとした。特に災害復旧に当たっては、住宅の崖面や擁壁に大きな損傷を受け、二次災害の危険性が高い宅地も少なくないことから、市独自に宅地災害復旧支援制度を創設するなど、新たな対策も講じたところ。

また、京大防災研究所の協力で構築した罹災証明・被災者台帳管理システムによる被災情報の一括管理に伴い、被災者支援申請のワンストップサービスを実施し、利便性と復旧事務を飛躍的に向上させるなど、産学官の連携も大きな効果を発揮しました。危機管理

てさまざまな方面から取り組んできました。中でも、次代を担う子どもたちを健やかに大きく育てるための教育、そして、誰もが安心して暮らせる地域づくりのための福祉には、特に力を注いでいるところです。

具体的には、学校週5日制が施行されていち早く、独自の「サタデースクール(土曜授業)」を始めて小・中学生の学力の向上に努めてきたほか、平成19年には「那須烏山市英語コミュニケーション特区」の認定を受け、小・中学校一貫した英語教育に力を入れてきました。また、各地で児童が巻き込まれる事件が多発する中、子どもの安全を確保するために、「地域ICT」を活用した見守りシステムを導入し、保護者や自警団、自治会などによる子どもの見守りネットワーク

マニュアルなどの整備に当たっても、専門的知識を有する産学との連携を強化して、有効で実効性のあるプランの策定を目指しているところ。

### 魅力あるまちづくりを

あの未曾有の大震災から間もなく5カ月。市内には、まだまだ震

災のつめ跡が残っていますが、これを契機に市では「安全・安心」を大きな柱とし、災害対策の充実とともに、効率的な公共施設の配置・運営を推進していくことにしています。併せて、豊かな自然と歴史ある文化遺産を生かした魅力あるまちづくりを進めていきたいと考えています。



日本一の野外劇が見もの「山あげ祭」

### プロフィール

- ◆ 面積 174.42km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 2万9857人
- ◆ 世帯数 1万514世帯

〔将来都市像〕自然と文化と活力が調和した暮らしやすいまち。那須烏山、〔まちの特徴〕豊かな自然の恵みを受けた農林業を基幹産業に、数々の史跡や日本一の野外劇「山あげ祭」などの歴史と文化が息づく、小さくてもキラリと光るまち

〔市町村合併〕平成17年10月1日、南那須町と烏山町が合併して那須烏山市となる



那須烏山市長  
大谷範雄



〔特産品〕烏山和紙(程村紙)、地酒乳製品 中山カボチャ、ナシ、イチゴ、そば、からすだいこん  
〔観光〕那珂川・荒川(鮎釣りのメッカ)、観光やな、観光果樹園(イチゴ、リンゴ、ブドウ、ミカン)、龍門の滝、山あげ会館、烏山和紙会館、烏山城跡、温泉、境橋、棚田、洞窟酒蔵  
〔イベント〕山あげ祭(国重要無形民俗文化財)、いかんべ祭、みなみなすタウンイルミネーション

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

## まちづくりと都市経営

はじめに

岩出市は県都和歌山市の東隣、大阪中心部から約50km、関西国際空港からは約30kmと、和歌山県北部の交通の要衝に位置していることから、昭和40年代に入り、急激な人口増加が続き、市制施行を目



新義真言宗の総本山「根来寺」大塔

標としたまちづくりが進められてきました。

平成の大合併が進む中、本市は7割を超える住民の要望により単独での市制施行を平成18年4月1日に実現しました。

市制施行6年目を迎えた現在でも人口増加は続いており、全国的に見ても高齢化率は低く、生産年齢人口(15歳~64歳)の割合が高い状況となっています。

### まちづくりと都市経営

#### ①長期総合計画の見直し

私は、平成8年、当時の岩出町長に就任して、第一に取り組んだのが、まちづくりの基本方針、いわゆる長期総合計画の見直しでした。それまでは、長期総合計画といえば、コンサルタント任せといえますが、どこに行っても通用するよ

うな計画になっていました。

私は、岩出のことを最も理解しているのは職員であり、岩出の未来に責任を持つのも職員であるとの観点から、職員主導で総合計画を策定させました。

この狙いは、まちづくりの基本方針を職員全員が共有するということです。

総合計画の素案作成には職員一丸となって取り組まなければならず、また、10年後を想像し、先進地の状況も学ばなければなりません。

また、まちづくりにおいて最も大事なことは、行政の独り善がりであってはならないということです。住民、地域、さらに行政に協力いただいているさまざまな分野の団体など、できる限り多くの方との「対話と協調」が必要です。行政に対する住民の建設的な意

見や、地域の問題点などに対する要望を聴く機会として、毎年、市内18会場で「市政懇談会」を実施しており、今年で15回目を迎えますが、この市政懇談会では、住民ニーズの変化や多様性について身をもって認識することができま

本年度、これまで培ってきたまちの特性やまちづくりに対する課題を把握し、時代背景や時代の要求、住民要望、職員の考えなどを積み重ねた新しい長期総合計画をスタートさせました。

しかしながら、地方分権改革により基本構想の策定義務が撤廃されようとしています。これにより、今後、どういった形でまちづくり方針を策定していくか議論が必要になります。

私は、住民や議会に対する説明責任を果たす上においても、できるだけ多数の住民の合意が得られる長期的な構想がまちづくりの基本となるものであり、予算編成においても長期構想に基づいて各年

度の重点業務なども選択できるものと考えており、基本的には長期・中期・短期というように段階的に方針を策定して住民への理解を求めていきたいと考えています。

#### ②職員の意識改革

次に取り組んだのが職員の意識改革ですが、これは私自身、最も難しいと思っています。

「町から市になるのには何が必要か」と考えたとき、人口や公共施設などの整備をはじめとした要件を満たしていることはもちろんのことですが、私は、市制施行に対する職員の意識の高さと資質の向上が必要であると思いました。

地方分権とは、地方が自主自立の道を目指し、自己責任を持つことにあります。

人・物・金という観点から地方分権を考えますと、一番問題となるのが「人」であります。

物や金というのは法律や制度により、ある程度、枠組みが決まっております。住民ニーズに対応できますが、人は明日から別人になることはできません。

一つの行政区域を人体に例えるなら、市役所が心臓、そしてスポーツ施設、保健福祉施設、図書館や

公民館をはじめとする文化施設などの公共施設が各臓器であり、職員はすべての臓器を健康に動かす血液の役割を担っています。血液に不純物が混ざったり、濁ったりしますと動脈硬化を起こしたり人体に障害を引き起こします。血液は、一定の方向を向いて円滑に流れることで人体すべての機能を活性化します。職員の役割も同じことであり、行政運営を円滑に行うためには職員の規律ある円滑な動きが必要であると思います。

特に、職員に意識させていることは、あらゆる場面においてPDCAサイクルを意識することです。その上で最も大事なことは、取り組む施策や行事などの趣旨・目的をきつちりと把握することであり、それがばやけてしまうと、業務の発展はありません。

PDCAサイクルを意識して繰り返すことにより、業務を継続的に改善させ、より精度が高い施策や行事などが完成できると思います。

### おわりに

まちの経営方針についての私なりの考えは、民間であっても行政

であっても同じことであり、いかに「人・物・金」を効率的に動かすかであって、職員は個々の意識改革と資質向上を図るとともに、住民の意見・要望の最大公約数がどこにあるのかを把握し、本市が進むべき方向性を住民に示していかなければなりません。

ことが重要であると考えております。本市はまだまだよちよち歩きの新しい市であり、市にふさわしいまちづくりがこれからの課題であります。本市にとっての「市にふさわしいまち」とはどういうまちであるのか住民の声を聴き、議論を深めながら本市に住んで本当に良かったと思っただけのまちづくりを進めてまいります。

### プロフィール

- ◆ 面積 38・50km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 5万3802人
- ◆ 世帯数 2万670世帯

〔将来都市像〕活力あふれるまちふれあいのまち。緑豊かな住環境と歴史文化が健康都市。いわで

〔まちの特徴〕和歌山県の北部に位置し、ゲートウェイシティ(玄関都市)として年々人口が増加しており、平均年齢も県内で最も若く、高齢者が少なく、年少者の多いまち

〔市制執行〕平成18年4月1日、岩出



岩出市長 中芝正幸



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

# わが

## 癒やしと健康をテーマに「日本一元気なまちづくり」を展開

はじめに

南城市は、平成18年1月1日に4町村(旧佐敷町・旧知念村・旧玉城村・旧大里村)の合併により誕生しました。

本市は、琉球民族発祥の地として知られ、琉球の聖地巡礼「東廻り」にゆかりの深い聖地を数多く有しており、県内外から絶えず参拝者が訪れ、パワースポットとして注目を浴びています。世界文化遺産である「斎場御嶽」をはじめ、深い歴史を刻んだ多くの「城」を有し、長い歴史と文化を背景に、世界に類を見ない深い精神文化と人縁・地縁による強いつながりによってはぐくまれた独特の美しい風土が広がっております。

また、知念半島の東側に位置する久高島は、創世神・アマミキヨ

が最初につくったとされる島で、神々の島と呼ばれ、今なお神聖な時が流れ、琉球王朝時代に行われた神秘的な祭事が継承されており、民俗的に貴重な島として注目されています。

また本市は、豊かな自然に恵まれており、ビーチや太平洋の大パノラマを望む知念岬公園、全国名水百選・垣花樋川など、透き通る美しい海や緑、色鮮やかな美しい風景など、心を癒やす空間が多く存在しています。

### 市民主役の協働のまちづくり

住みよいまちづくりは、地域住民が自ら主体的に考え、つくり上げていくことが原点であると考え、自治会やNPO、各種市民団体などと連携し、「市民主役のまちづくり」を目指しております。

その取り組みの一つに、市の公募型助成事業「上がり太陽プラン」があります。これは、優秀な提案事業を行う市民団体に対し、助成金を交付するもので、その審査員は市内の中学生が担います。

また、市民主体のイベントも多く、市の青年会による「青年芸術フェスタin南城」は、自らが運営主体となり、地域の伝統芸能を披露するイベントです。さらに、市民団体が主催する「半島芸術祭in南城」は、市全体を芸術祭会場として見立てたイベントであります。これらは、市民の知恵とアイデアによる手づくりの企画が特徴です。

市民自らが創造力を発揮し、主体性を持って本市の元気発信、魅力あるまちづくりに貢献いただいております。

市民自らが創造力を発揮し、主体性を持って本市の元気発信、魅力あるまちづくりに貢献いただいております。

### 人づくり

まちづくりの基本は「人」であり、「地域づくりは人づくり」の理念の下、人材育成にも力を入れて取り組んでいます。

国際化に対応できる人材を育成するため、海外短期留学制度を創設し、夏休みにアメリカ合衆国ミネソタ州セントジョーンズ大学に市内の中・高校生を毎年20名派遣しています。

また、市民リーダーをはぐくむ場所として、平成22年度に「なんじょう市民大学」を開設しました。自ら企画して実践し、その成果が確実に地域活性化に生かされることを重要視しており、修了生は、市のまちづくりへ積極的に関わっていただくことになっていきます。

農業分野においては、農業青年クラブが主体となつて、技術力向上・情報共有化による連携を図ることを目的に、農業塾「ニライカナイ塾」を開設しております。

### 新たな観光振興「癒やしと健康」

「癒やしと健康」をテーマに、本市ならではの体験滞在交流型の観光振興と健康づくり事業にも取り組んでいます。

体験滞在交流型観光の一翼を担うのが、市内の農家漁家に宿泊して農漁業を体験する民泊事業です。民泊事業は主に、県外の中・高校生修学旅行を対象としており、平成21年度の民泊の体験者は7000人と人気を集めております。

また、統合医療と観光という視点では、本市の自然環境は人間体内の自然治癒能力を高めることができる環境であり、心身をリラックス&リフレッシュし、真の元



一面に広がる青い空と海の大パノラマを楽しめる「知念岬公園」

気と美を取り戻す、そんな有意義な旅を堪能いただけると思います。現在、統合医療を融合させた本らしい観光の在り方「南城ツーリズム」を展開

するため「南城市ウェルネス事業」に取り組んでいるところです。

健康づくり事業としては、特定健康診査の受診率向上策として、ナイト(夜間)健診や、受診率の高い集落に報奨金を与える報奨金制度など市独自の取り組みを行っており、受診率が大幅に向上しています。

### トピック

#### ①ハート形♥南城市

ハート形の地形にちなんで、市制施行5周年記念事業として「なんじょうハートプロジェクト推進事業」をスタートさせており、その一環として新たなブランドイメージ、ロゴマークおよびイメージキャラクターを全国から公募しております。今後、マークを積極的に活用し、南城ブランドを発信していきます。

#### ②世界文化遺産・斎場御嶽がドラマ「テンペスト」の舞台に

NHKBSで7月から放送開始のドラマ「テンペスト」の撮影が、世界文化遺産・斎場御嶽で行われました。ドラマでは、琉球最高の聖地・斎場御嶽の神秘的な雰囲気を感じ取れることと思います。ぜひ、ご覧ください。

### おわりに

私は、「日本一元気で魅力あるまちづくり」を市民と協働で築き上げていくことを大きな目標に掲げ、行動をしてきました。多くの市民が「南城市民で良かった」「南城市に生まれて良かった、住んで良かった」と思うまちを実現することが最も重要なことでもあります。

### プロフィール

- ◆面積 49・77km<sup>2</sup>
- ◆人口 4万876人
- ◆世帯数 1万4418世帯

〔将来都市像〕海と緑と光あふれる南城市

〔まちの特徴〕琉球開びやく神話の地・南城市は、美しい豊かな自然景観と貴重な歴史文化遺産など豊かな地域資源に恵まれている。現在「癒やしと健康」をテーマに、観光振興と健康づくり事業に取り組んでおり、市民と協働して、「日本一元気で魅力ある南城市づくり」に邁進している



南城市長 古謝景春



〔特産品〕活き車えび、EM牛乳・EMアイス、葉草加工品、モズク加工品、キビ酢、古酒の琉球王朝など

〔観光〕 がんじゅう駅・南城、知念岬公園、あざまサンサンビーチ、新原ビーチ、世界遺産・斎場御嶽、東廻り、玉泉洞、糸数アブラカガマなど

〔イベント〕 尚巴志ハーフラソンin南城市、東廻り国際ジョイアスロンin南城市、Street Dance Championship HATSU、半島芸術祭in南城、青年芸術フェスタin南城、Jazz in Nanto

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。